

AUSTRA

多文化社会の選択

杉本良夫著

1. オーストラリア人とは誰

a) 家庭内バイリンガル

ア) 4世帯に1つ

イ) 外国生まれ人口がイスラエルにつき2位

ウ) ベトナム系アジア系の子供が多数「

i) ちゃんとした英語の発音が不可能

b) オーストラリア英語

ア) 先入観、偏見が混在

c)ある人が何国人か思考

ア)本人が自分をいかに定義

イ)オーストラリア国籍未取得の外国人

i)永住者の6分の1

ii)二重国籍を容認→先進国では希

d) 国籍民族文化

ア) オーストラリア国籍の間で英会話が不可能

→ どの国の人が不明

イ) オーストラリア国籍を放棄

→ オーストラリア人が不明

ウ) オーストラリア文化の理解者

→ 文化は無数に存在、全ての把握は不可能



オーストラリア人の定義は不可

2. 多文化社会の現場

a) 様々な文化の食事

アジアの食の人気

i) ベトナム移民が数十万人

ii) 豪州米の創設者「高須賀穰」

→ 収穫高の多いジャポニカ種を開発

→ 日本米が生産拡大

b)カプチャーノキッズ (混血児)

ア)民族間結婚の子供の増加

イ)人口の約 6 割が異民族間結婚

ウ)今日のオーストラリア人代表は
「カプチャーノキッズ」

c)ワーキングホリデー・ブライド

ア)ワーキングホリデー中、現地男性と結婚

3. 多文化主義と実力主義

a) マルチカルチュラルリズム

ア) 各個人の民族的属性を無視

イ) 気風→個人の能力だけを重視



多文化主義と市場主義の相性良し

4.文化は民族文化だけか

a) 民族文化は多くの場合ステレオタイプ化(外見だけ)

日本固有文化の喪失

b)文化は常に変化

ア)生活レベルでの思考

イ)価値観の次元で思考

c)遠隔地ナショナリズム

ア)イタリア系家庭で母と娘の衝突

i)イタリア系コミュニティの母親（保守的）

ii)オーストラリア育ちの娘（自由的）

iii)母親の思考(イタリア文化) →昔のもの



価値観の衝突が頻繁

イ)この場合の母親の「イタリア文化」

i)メルボルンに移住以来、イタリアに未帰国

→30年以上前の文化

ii)現在のイタリアの若者文化とは何か

iii)娘とイタリアの若者の主義が同様の可能性

iiii)母親のイタリア文化は「時間の停止」

→文化はいつも変容

d) マイノリティー民族の習慣

ア) 少数派が故、容認が難儀

イ) 民族マイノリティー文化の優先順位

→ 補助金配分などの行政施設に影響

i) イタリア系の移民保護活動

ii) 男性による家庭内暴力の根絶活動

→ 後者のほうが手厚い支給

e)レインボーマークの店

(ゲイの方歓迎の店)

ア)同性愛の許容傾向が増加

i)毎月2月に数万人の同性愛者パレード開催

まとめ

民族次元の差別は、さまざまな差別の一つ

マイノリティーは多様な次元で発生



終わり。